

広報 つきがた

No. 112

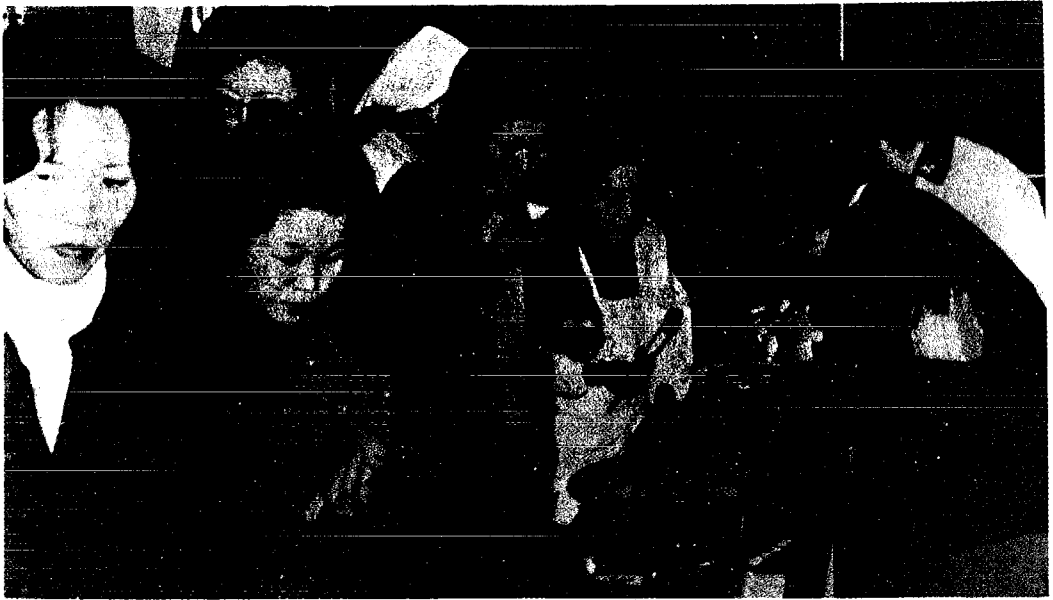
昭和54年3月10日発行

発行/新潟県月潟村役場

毎月10日発行 1部10円

(昭和52年7月22日第三種郵便物認可)

人口動態	2月28日現在	2月中の異動	
	世帯数 808 (男 1,918)	人口総数 3,897 女 1,979)	出生 5 死亡 2



村農政対策協議会で

米消費拡大推進運動の集い

去る二月二十六日、月寿荘を会場に月潟村農政対策協議会が主催して「米消費拡大推進運動の集い」が催されました。

これは、社会的に大きな問題となっている米の生産過剰に対処して計画されたもので、会場には村長、村議会関係者を始め、農家関係者や各種団体関係者など約九〇名のみなが参加され、この問題に対する関心の深さがうかがわれると同時に、熱意が感じられました。

—さあ、べよう!! 都市と農村つなぐ米—

が、十八才以下の若年層は三〇%と非常に低く、これからの米の消費拡大を考える場合、むずかしさがあるといえるようです。

しかしながら、米のもつ栄養価の高さが見直されているという結果もあり、本村の小・中学校における米飯給食が比較的好評であることなど、明るい材料もあり、日本人の主食として最適な食糧であると言える米をもう一度見直し、消費の拡大をみんなで考える時期ではないでしょうか。

この集いでは、米を原料とした手作り食品の試食会も行われましたが、農家の婦人層が作った「蒸しカステラ」「仲よしダンゴ」「しその炊きこみご飯」「ごまめし」など、約二十数点が展示されました。参加者の試食後の感想は「これはいける!!」でした。

最近の全国農協中央会が行った実態調査では、五年前と比較して米の消費量が「減った」と答えた世帯が四十三・五%もあり、その理由では①家族が減った②おかずを多くとるようになった③パン・めん類を多くとるようになった……などが多くなっています。

参加者は一様にこれからの「米消費拡大」の重要性を認識されていますが、村の発展の意味でも村民全部がこの運動に参加し、一緒に考えてみようではあります。また、ごはんを好む年代は主人、主婦、祖父母など、いわゆる中高年代は六〇%以上となっています。